

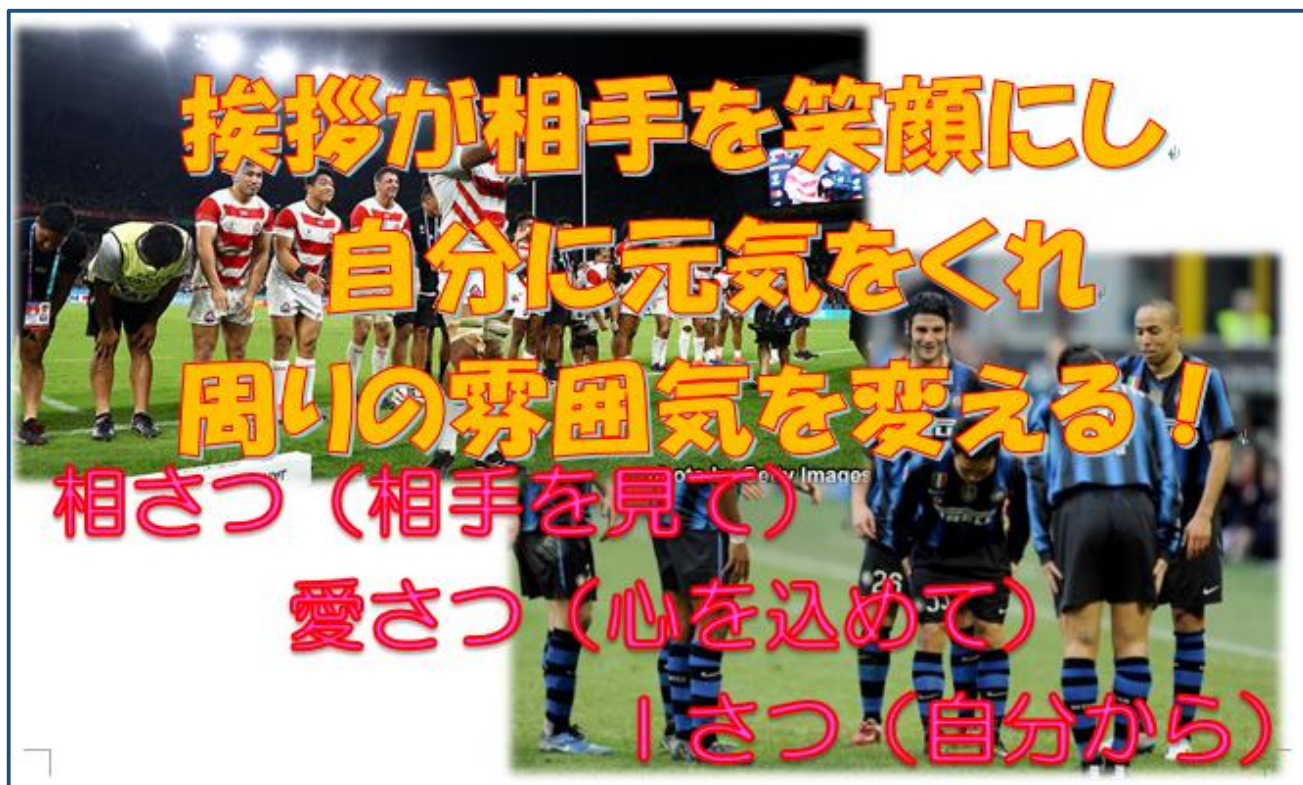
☆☆☆ 生徒支援だより 9月号

結繫～きずな～

令和 6年 9月2日発行
府中町立府中緑ヶ丘中学校
生徒支援部 ☆☆☆

2学期のスタート！挨拶が気持ちを真向きに！

夏休みが終わり、2学期がスタートしました。「夏休みがもう1週間ほしいなあ」「授業が始まるめっちゃしんどいわあ」と思いつつ力を振り絞って学校にきた人も居れば反対に、「夏休みが時間があつたけど何したらいいかわからなかった」「学校の方が友達と会えるけんいいわあ」と学校を楽しみに来た人もいるでしょう。それから、それぞれの場所でいろいろと悩みながら、次の一步を踏み出すためのエネルギーをためている人もいるでしょう。そんな緑中生みんなと今日を迎えることができてよかったです。2学期は、文化祭や修学旅行など行事もあり、3年生は大切な進路選択があります。悩むことの多い2学期だからこそ、お互い隣の人の様子を見ながら声を掛け合っていきましょう。2学期は「挨拶」をみんなで広げることができればと思います。というわけで、



昨年度こんなことを言ってくれた人がいます。「先生が『おはよう！元気？』と声を掛けてくれたおかげで救われました。」と。みんなの挨拶がクラスメイトや仲間を救うかもしれない。生徒会執行部は今年度から挨拶 WEEK として、縦割りでの取り組みをしています。ぜひ、気軽に参加して「挨拶」が誰とでも交わせるような学校になればいいなと思います。

そして、1 学期終業式で梶山は「いろいろと勉強して 5 倍大きな声が出るように頑張ります。」とみんなに伝えました。声の大きさは置いてこの夏の学びを 2 つ紹介します。

①LGBTQ+（性の多様性）

2・3年生は昨年度この時期に「ここいろ hiroshima」の高畑桜さんが講演して下さったことを覚えていませんか？生物学的な男・女の区別とは別に、心の性のとらえ方は人それぞれです。「みんな違ってみんないい」誰もが様々な違いを認めつつ生活できればいいですね。もし悩んだりモヤモヤしたりしている人がいればそれぞれのタイミングで、話をしてくれていいですよ。



【性的少数者が置かれている状況】

- 1 本当は身近にいるのにいないことにされてしまうこと
- 2 孤立したり、孤独感を深めてしまうこと
- 3 将来像をイメージしにくいこと
- 4 職場や学校で男女が分かれて動く環境があること 等



広島県版性の多様性リーフレットより引用

②いじめの未然防止・早期発見

府中町の小学校・中学校教員全体でこの問題について考えました。皆さん、いじめの定義について知っていますか？法律（いじめ防止対策推進法）では・・・

「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している生徒等当該児童生徒と一定の人間関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」

つまり、①暴力を伴ういじめ②暴力を伴わないいじめがありさらに③犯罪行為として扱われるいじめもあります。また、加害者側がその気がなくても、受けた側の気持ちで「いじめ」とみなす、ハラスメントの考え方に立った扱いをしています。このことから大切にしてほしいことは・・・

①隣の人、クラスメイトなど周りの人を大切にすること。

②どんな理由があっても、人をいじめていい理由にならないこと

③しんどいことがあったときに正しい自分なりの解決する手段を身につけること



常に人間関係がうまくいくとは限りません。トラブルもあるでしょう。あって当たり前で、悩んで当たり前です。その経験を通して、言葉遣いを改善したり考え方を変えたりしていくことが大切で、この経験を成長につなげるためにサポートするのが先生たちの役目だと思います。道徳やSST、日々の授業や教育相談、毎日の会話の中で、共に悩んで考えて行きましょう。そんな先生たちからのメッセージを生徒玄関に掲示してありますのでぜひ読んでみてください。